

1 個を大切にした「心の居場所づくり」

すべての子どもが自己の存在を実感し、自分らしさを発揮してのびのびと活動し、自らの生き方や将来に対する夢や目的意識をもてるような「心の居場所づくり」を進めましょう。

(1) 一人一人を大切にすると子ども理解

子ども理解の工夫

一人一人の子どもの表情や言動が意味しているものを見逃さないという姿勢で進めることが大切です。また、教職員間の子ども理解のための話し合いや連携から、共通理解をもち、より多角的な視点で理解に努めることが必要です。

- ・ 子どもと共に遊び、共に働くことを通して、子どもを肯定的にとらえる。
- ・ 生活ノート、作文、連絡帳等を通して、日ごろの人間関係や子どもの思いをつかむ。

人間関係づくりの推進

不登校のきっかけとして「友人関係をめぐる問題」「教職員との関係をめぐる問題」等の学校内での人間関係によるものが多くを占めています。最近の子どもたちは、人間関係の形成が苦手なストレスを感じています。そのため、学校生活においては、学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特別活動を充実させ、子ども間や教職員との好ましい人間関係の形成を学ばせ、育てることが必要です(p.25参照)。

教育相談の充実

教職員は教育相談を一人一人の子どもから話を聴く場として位置づけ、子どもに「先生は自分のために考えてくれている」「自分の存在は肯定的に認められている」ということを感じさせていくことが大切です。学校で子どもが肯定的存在感をもって、各自の独自性が発揮できるよう援助していく必要があります。

- ・ 普段から子どもに対し、声をかけるように心がける。
- ・ 学級担任による定期的な教育相談を実施するようにする。

子ども理解のための研修の充実

子どもにとって、話しやすく相談しやすい雰囲気をもち、子どもの立場に立って聴き、指導ができる資質を身に付けた教職員が望まれています。資質向上のためのシステム化された学校内外の研修のみならず、各学校において、複数の教職員が不登校の子どもに対して継続的にかかわっていくことも大切な研修です。

- ・ 事例検討会等、子どもの具体的な姿を通して考え合う。